

# 巻 頭 言

長野県透析研究会会長 上 條 祐 司

2020年初頭に中国武漢からはじまった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は瞬く間に世界中に拡散し全世界を混乱に陥れ、長野県透析研究会の学術活動にも大きな影響を与えました。

2020年11月に開催するはずであった第68回長野県透析研究会学術集会は、医療現場が引き続きの対策を取り続ける必要性があったこと、第2波・第3波の感染拡大が危惧されたこと、県内透析従事者が感染した場合には透析患者のクラスター化を起こしてしまう可能性があったこと、などから従来通りの集会的開催は見送りすることを決定し、史上初の長野県透析研究会誌上での論文発表という形式での開催とさせていただきました。

しかし、その後もCOVID-19は完全収束することはなく、第1波から第6波まで感染拡大を繰り返し、social distanceが必要な世界が2年以上も続くことになりました。そんな中、RNA ワクチンの接種やCOVID-19治療薬の開発も進み、次第にCOVID-19感染症と戦う武器も増え、感染予防対策におけるマスク着用や密を避けるといったコツのようなものも浸透し、またweb配信にも多くの人々が慣れてきたということもあり、第69回長野県透析研究会学術集会は2021年9月にweb配信を利用したハイブリッド集会として、発表者や座長は現地集合、それ以外の参加者はweb参加という形で開催させていただきました。

今回の長野県透析研究会誌は、そんな社会的困難な中、演者の皆様に発表して頂いた内容が中心となり構成されています。

多くの苦勞をかけて作成された論文ばかりですので、可能であれば、より多くの方々にこれらの論文を読んで頂き、今後の透析医療の参考にして頂ければと思っております。しかし、今まで長野県透析研究会誌に掲載された論文は、誰もが閲覧できるような状況になっておらず、長野県透析研究会所属の施設の方々に限定されて共有できるのみとなっております。

日本中の多くの透析関係者に我々の論文を自由に読んで頂き、長野県から発信した研究内容が日本中で利用されるようにするために、今回の長野県透析研究会誌より、本誌上で発表された論文は全てオープンアクセス化することを決定させていただきました。

論文のオープンアクセス化に向けては、個人情報保護や倫理的問題や論文内容に問題がないかの査読によるチェックが必須となります。今回は、多くの査読者の皆様のご協力を得、web公開前に論文チェックを行うことができました。査読者の皆様には、多くの時間を割いて頂いたかと思えます。この場を借りて査読者の皆様に感謝申し上げます。

査読をしっかりと行った場合には、その後に執筆者の皆様には修正作業をして頂くことが必要となります。長野県透析研究会誌への今後の論文投稿にあたっては、執筆者の皆様には事前に長野県透析研究会誌の投稿規定を熟読していただき、投稿規定に沿った論文作成をして頂くことを是非ともお願い致します。

Web を利用した学会運営や論文のオープンアクセス化など、新しいことを始めた時には、それに慣れるのがとても大変かと思いますが、長野県透析研究会も時代の流れに沿って活動していく必要があると思っておりますので、何卒ご理解ご協力のほどお願い申し上げます。

なお、2022年10月に予定している第70回長野県透析研究会では、COVID-19の状況にもよりますが、web 上での live 配信のツールも残しつつ、昨年度よりは会場にリアルにご来場できるようにしたいと思っております。世界的にも、徐々にコロナから解放されつつあるような流れにもなりつつあるので、長野県透析研究会も臨機応変に対応していきたいと思っております。

現在、透析医療においては、多くの透析合併症に対する課題、透析患者の高齢化やそれに基づくサルコペニア・フレイルなどの問題、尊厳ある死と透析医療との折り合い等々、様々な難題が山積みされています。

長野県透析研究会や長野県透析研究会誌は、これらの難題に対して様々な観点から議論をし、得られた知見を世界に発信できる存在になることを目標にしたいと思っております。長野県透析研究会の皆様におかれましては、目標に向かい心を一つにしてともに歩んで頂くことをお願いしたいと思っております。

今後とも、よろしくお願い申し上げます。